

こたわろう! 暮らしの向上 ひろげよう! 仲間の輪 2026 春季生活闘争ニュース

2026. 3. 13 ー第3号ー 連合北海道 春季生活闘争本部

2026 春季生活闘争勝利！ 3. 10全道総決起集会の開催

連合北海道春季生活闘争本部（共催：石狩地域協議会・札幌地区連合）は3月10日（火）に「2026 春季生活闘争勝利！！ 3. 10全道総決起集会」を共済ホールで開催した。会場には産別・地協・退職者連合など650名が結集し、2026春闘のこれまでの取り組みと北海道の闘い、決意など全体で意思統一を図った。



挨拶する須間本部長

冒頭、須間本部長はアメリカと中東での軍事情勢や第51回衆議院議員選挙の結果に触れた上で、春闘について「賃上げは全国では2年連続の5%台と賃上げが当たり前との認識が労使で共有する環境になってき

ている」とノルム定着への現状を述べた上で「一方、モノの値段の上昇が生活者に大きな影響を及ぼしている。北海道の実質賃金は前年同月を下回り、賃上げの実感が全く届いていない」と物価上昇を上回る賃上げの実現にこだわった。その上で「中小企業での労務費の上昇に見合う価格転嫁が重要であり、進んではいるものの、まだ実効あるものとはなっていない」加えて「自社の取引が適正価格・適正取引となっているか、労働組合としてチェック機能を発揮してほしい」と呼びかけ、持続的な賃上げと格差是正へのカギとなる意識を訴えた。最後には「大幅賃上げの流れを止めることなく、今春闘での物価上昇を上回る賃上げを目指して、1人ひとりが『未来づくり春闘』を牽引していこう」と主催者を代表して挨拶した。

2026 春季生活闘争の方針を提起した和田事務局長は取り組みの状況について報告し、道内での討論集会などを通じて闘争方針の共有と体制づくりを進めてきたと述べた上で「労働組合の存在意義を広く社会にアピールして集団的労使関係を社会に広げていく」と提起した。また、現在のエントリー組合数が194組合、16日から19日までの先行組合回答ゾーンでは43組合、23日から31日の月内決着回答ゾーンでは64組合が交渉を展開していると報告した。

その後、UA ゼンセンアレフユニオンの大内委員長、JAM 北海道の長田書記長、渡島地協の長谷川事務局長から今次春闘への決意表明があり、最後は山下本部長代行の団結がんばろうで集会を終えた。

